

東日本大震災被災地の新卒者の厳しい就職環境を踏まえ、1人でも多くの新卒者が就職できるよう、文部科学省・厚生労働省・経済産業省（中小企業庁）の連携により「東北新卒者就職応援プラン」を実施します。

被災地の新卒者に対する今後の支援（当面の取組）

① ハローワークと学校・自治体の連携による地元求人の開拓（文科・厚労）

ハローワークと学校・自治体が連携し、関係機関の長の連名による要請書の活用や学校・自治体との合同求人開拓の実施により、地元求人を1件でも多く確保します。

【これまでの取組】

・ 被災地において求人開拓を行うだけでなく、文部科学大臣、厚生労働大臣及び経済産業大臣の連名により、主要経済団体等に対し、厳しい就職環境にある新卒者の採用拡大を要請しました（7月8日）。

・ 岩手労働局：岩手労働局長・岩手県知事・盛岡市長の連名により、県内主要経済団体7団体に要請訪問しました（6月16日・17日）【写真1】。また求人確保に向けて、ハローワークのジョブサポーター等が、岩手県の就業支援員と連携した事業所訪問、求人開拓を実施しています。（7月～）。



【写真1：岩手における要請】

・ 宮城労働局：宮城労働局長・宮城県知事・仙台市長・宮城県教育委員会教育長・仙台市教育委員会教育長の連名により、宮城県内経済団体5団体に要請訪問しました（7月20日）【写真2】。また県内27主要団体等に要請書を送付しました。さらに、求人確保に向けて、ハローワークのジョブサポーター等が事業所訪問による求人開拓を実施しています。



【写真2：宮城における要請】

・ 福島労働局：福島労働局長・福島県知事・福島県教育委員会教育長の連名により、県内経済団体5団体に要請訪問しました（7月14日・15日）【写真3】。県内4地区でジョブサポーターと福島県の就職促進支援員との連絡会議を開催し、高校生の就職支援の連携方法について話し合いました（8月23日・24日・30日・31日）。また、求人確保に向けて、ハローワークのジョブサポーター等が事業所訪問による求人開拓を実施しています。



【写真3：福島における要請】

② ハローワークの全国ネットワークを活用した首都圏等における求人の確保（文科・厚労）

県外での就職を希望する学生・生徒のために、被災地のハローワークと首都圏のハローワークが連携し、求人を確保します。



【これまでの取組】

- 被災地の生徒の就職希望地・職種を調査し、これに基づいた求人開拓を8月に集中的に実施し、全国で就職機会を確保します。なお、特に希望が多い首都圏の労働局長に対しては、厚生労働大臣から徹底した取組を指示しました（7月29日）。また、9月末現在で約1,800人分の被災新規高卒者向けの求人を開拓しました。
- 文部科学大臣及び厚生労働大臣の連名で、経済団体及び業界団体計257団体に対し、被災地の新規高卒者の採用拡大の要請書を送付しました（7月29日）。
- 笠文部科学大臣政務官及び小林厚生労働大臣政務官が日本経済団体連合会・全国中小企業団体中央会・日本商工会議所を訪問し、被災地の新規高卒者のための求人提出を依頼しました（8月4日・11日）【写真4】。
- 文部科学省から各教育委員会に対して、被災高校生の就職に対する協力を求める依頼文書を発出しました。（7月29日）
- 首都圏の労働局・ハローワークが開催する高校生向け企業説明会に、被災地の高校の進路指導担当に出席してもらい、企業に対し、自校のアピールをしてもらいました（実施回数：11回（6月21日～7月29日）、参加被災地域進路担当者：91人）。



【写真4：文科・厚労における要請】

【開催例】

- 埼玉労働局では、7月13日に「埼玉県高校生向け合同企業説明会」を開催し、141社の地元の企業がハローワークの呼びかけにより参加し、被災地の高校の進路指導担当者から、高校における就職活動の状況や就職を希望する生徒について説明を受ける機会を設けた。（写真5）

【参加企業からの感想】

- 「労働局・ハローワークからの案内状でこのような機会があることを知った。たくさんの生徒と出会うことができ、今後ともハローワークにこのような機会を設けてもらいたい」
- 「東北の教師の訪問を受け、震災を受けた現地の就職の大変さを実感した」
- 「東北の学校と多くの情報交換ができ、被災地各県の先生方の真剣な会社探しに頭の下がる思いがした」



【写真5：企業と高校進路指導担当者の説明会】

③ ジョブサポーターが学校を訪問しての支援（文科・厚労）

ジョブサポーターが学校を訪問し、きめ細かな就職相談や求人情報の提供を実施します。

④ 被災地等における就職面接会等の開催（文科・厚労・経産）

【主に新規高校卒業予定者を対象にした取組】

被災地において、高校生を対象にした地元企業の就職面接会を開催します。また、首都圏の企業を被災地に集めた企業説明会を開催しました。



【これまでの取組（下線部が新たな取組）】

被災地の生徒を積極的に採用する首都圏の企業による就職面接会を各地で開催

※ 岩手・宮城・福島の各地域から仙台の会場への交通手段も用意

- ・ 10月14日 「がんばろう！東北 新規高卒者就職面接会」（開催場所：仙台）【写真6】

参加企業数： 133社 参加者数（被災学生数）： 692人

- ・ 11月 1日 「新規高卒者就職面接会」（開催場所：埼玉）（福島からバスを用意）

参加企業数： 108社（被災新卒者専用求人以外も含む） 参加者数（被災学生数）： 35人

- ・ 11月10日 「新規高卒者就職面接会」（開催場所：栃木）（福島からバスを用意）

参加企業数： 51社（被災新卒者専用求人以外も含む） 参加者数（被災学生数）： 11人

- ・ 11月21日 「新規高卒者就職面接会」（開催場所：千葉）（福島からバスを用意）

参加企業数： 56社（被災新卒者専用求人以外も含む） 参加者数（被災学生数）： 17人

- ・ 12月 2日 「被災地新規高等学校卒業予定者就職面接会」（開催場所：福島県郡山）

参加企業数： 30社 参加者数（被災学生数）： 17人



【写真6：仙台での面接会を終えてバスに乗る生徒】

【主に新規大学卒業予定者等を対象にした取組】

- 被災地などにおいて、新規大学卒業予定者を対象にした就職面接の機会を継続的に提供します。

- ・ 2月2日 「2012ふるさと就職ガイダンス」（開催場所 岩手）
- ・ 2月22日 「平成24年3月新規学卒者就職面接会」（開催場所 宮城）



【これまでの主な取組（下線部が新たな取組）】

- ・ 9月29日 「就職応援フェア in 盛岡」（開催場所：岩手県）

参加企業数： 30社 参加者数： 218人

- ・ 10月6日 「就職応援フェア in 福島」（開催場所：福島県）

参加企業数： 29社 参加者数： 142人

- ・ 11月3日 「DREAM-MATCH LIVE 仙台」（開催場所：宮城県）

参加企業数： 25社 参加者数： 710人

- ・ 11月24日 「就職応援フェアin郡山」（開催場所 福島県）

参加企業数： 33社 参加者数： 261人

- ・ 12月19日 「就職応援フェアin福島」（開催場所 福島県）

参加企業数： 40社 参加者数： 162人



【写真7：面接会に臨む学生】

- 被災地外での就職を希望する学生を対象に、交通手段・宿泊をセットにした就職面接会ツアーを開催します。

(11月時点の開催予定)

- ・ 2月(予定)「第3回新規大卒者等合同就職面接会」 (開催場所：東京) ※詳細は調整中



【これまでの取組(下線部が新たな取組)】

- ・ 7月7日 「近畿ブロック大学等就職フェア2011」 (開催場所：大阪)
参加企業数：のべ221社 参加者数：2,870人
(うち被災学生：72人)
- ・ 7月12日～15日 「新規大卒者等合同就職面接会」 (開催場所：東京)
参加企業数：144社 参加者数：のべ1,478人
(うち被災学生：のべ120人)
- ・ 9月20・21日「被災新卒者専用 埼玉・東京就職応援面接会」 (開催場所：埼玉)
(写真8) 参加企業数：63社 参加者数(被災学生)：168人
- ・ 11月2日 「第2回新規大卒者等合同就職面接会」 (開催場所：東京)
参加企業数：181社 参加者数：2,133人(うち被災学生：33人)



【写真8：被災新卒者と首都圏企業の面接会】

- 被災地に通年にわたり面接会場を設置し、被災地のハローワークと首都圏のハローワークとの連携により、東北地方で勤務できる企業などを中心とした就職面接会を機動的に開催します。

⑤ 就活のための宿泊施設の提供(文科・厚労)

首都圏で就職活動を行う被災地域の学生・生徒(3年以内の既卒者を含む。)の皆様、(独)国立青少年教育振興機構(国立リハビリテーション青少年総合センター)及び(独)労働政策研究・研修機構(労働大学校)の協力により、宿泊施設を無料で提供しています。

(お問い合わせ)国立リハビリテーション青少年総合センター(東京都渋谷区)03-3469-2525/労働大学校(埼玉県朝霞市)048-463-1021

- ・ 宿泊者には、新卒応援ハローワークのジョブサポーターによる支援などの紹介を行います。



【これまでの取組】

- ・ 4月28日以降、のべ2,615人を受入れ(24年1月10日時点)
(うち労働大学校768人、オリンピックセンター1,847名)



【写真9：労働大学校宿泊中に開催された就職支援セミナー】